宿場町ひらかた

第９８号

発　行
宿場町枚方を考える会
会長　上谷　勝己
枚方市船橋本町2-87-7
072-857-2995
編　集　広報委員会

主な内容

○歴史講演会を開催　会場は楽寿荘　（１頁）
○醒井宿と柏原宿を訪ねる　（２頁～６頁）
○宇治十帖の舞台を巡る　（７頁～10頁）
○片町線　京阪電車の歴史　（11頁～16頁）

歴史講演会を開催

会場は楽寿荘で

令和６年６月16日、「明智光秀からみた本能寺の変、『洞ヶ峠の日和見』の再検討」と題し、歴史講演会を開催しました。講師は市立鍵屋資料館学芸員等の片山正彦さん、会員など77人の参加者をいただきました。

会場は「枚方市立老人福祉センター楽寿荘」です。設立当時を除き、本会が講演会の会場として利用するのは初めてです。

これには理由があります。従来の会場だった枚方市総合文化芸術センター別館（旧メセナひらかた会館）など、本会の講演会に適している市施設の使用申請は、使用日の２ケ月前からです。これでは準備期間が２ケ月間しかなく、主催する側にとっては厳しいのです。

講演会を企画する場合、会場の確保が絶対条件です。まず開催予定日を決め、その日時の使用許可申請書を提出します。他団体との重複がなく、使用が確定すると、講師に講演を依頼し、表題などを協議します。

開催日時と表題が確定すると、会員への通知文発送、ＰＲのために「広報ひらかた」短信コーナー掲載依頼、ポスター作製など、こうした一連の作業を行うには、「使用申請は使用日の２ケ月前」というのは厳しい条件です。幸い、市の施設で楽寿荘は「３カ月前」なので、他の市施設に比べて準備に１カ月の余裕があります。次回も含めて楽寿荘での開催が多くなると思われます。

楽寿荘玄関

中山道の宿場町
醒井宿と柏原宿を訪ねる

三栗　石川　勲

令和5年度のバス利用の見学会は令和6年3月7日、中山道の醒井宿と柏原宿を訪ねました。本稿は前号に掲載予定でしたが、実施日と発行日の期間が短く、編集の都合上、本号に掲載します。

当日は、会員など40人が午前8時に枚方市総合文化芸術センター横に集合、出発しました。天候には恵まれましたが、両宿とも琵琶湖の北東部、岐阜県に近いため、名神高速道路を利用しても3時間近くかかりました。

最初の到着したのは東海道本線のJR醒ケ井駅前広場です。「まいばら観光ボランティアガイド」3人の出迎えを受けました。

中山道

江戸時代に整備された五街道の一つ、江戸日本橋と京都三条大橋を結んでいました。途中、67の宿場があります。太平洋沿岸を通る東海道に対し、内陸部を通っています。草津宿から大津宿までは東海道と同じです。

さめがいしゅく 醒井宿

中山道61番目の宿場で、滋賀県米原市にあります。古代から交通の要衝であり、その地名は鎌倉時代の日記や紀行などにも記されています。宿駅としては江戸時代に整備され、天保14年（1843年）には、本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠11軒がありました。

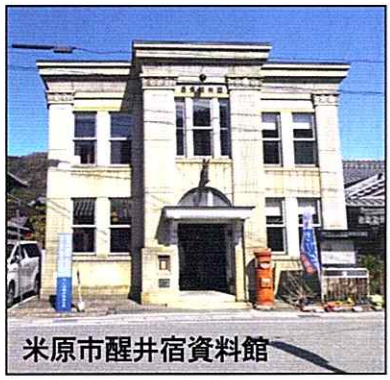
平成27年4月に文化庁の「日本遺産」に選定されています。

米原市醒井宿資料館

最初に案内されたのはJR醒井ケ駅から約２００ｍにあ

る資料館です。大正４年（１９１５年）に建設され、昭和48年まで醒井郵便局として使用されていました。

アメリカ人の設計による木造２階建ての擬洋風建築物。平成10年に国の登録有形文化財に登録され、解体修理を経て平成12年から資料館として利用されています。


米原市醒井宿資料館

１階展示室はパネルなどによる醒井宿の紹介、２階は醒井宿絵図や古文書が展示されています。なお、資料館としては後述の川口家住宅（旧醒井宿問屋場）との２カ所で構成されています。

地蔵川

醒井宿の最大の特徴は、清らかな流れです。文化２年（１８０５年）の「木曽路名所図会」には、「町中に流れありて至って清し、寒暑にも増減なし」と記されています。

清らかな流れは、宿場の南東６kmにある霊仙山（りょうぜんざん）からの豊富な伏流水がもたらす宿場内の湧水にあります。

地蔵川はこれらを水源とし、宿場に沿って流れており、「醒井七湧水」とともに今日も街並みに潤いをもたらしています。

川幅３m、水深50 cmの小川ですが、岸辺には川戸（かわと）と呼ばれる水洗い場があり、生活用水として使用されていました。

川戸

いさめ 居醒の清水

「醒井七湧水」の一つ、地蔵川の源流となっている湧水です。１日の湧水量は１・５万㌧、水温は12℃～15℃。平成20年、環境省の「平成の名水百選」に選定されています。

古事記と日本書紀によると、日本武尊（やまとたけるのみこと）が伊吹山の荒神の毒気にあたり高熱を発したが、この清水により覚醒したとされ、「居醒清水」と名付けられました。醒井の地名の由来と言われています。

バイカモ

漢字では「梅花藻」と書きます。清流の水中で生育する多年草の水草。全国的に分布していますが、冷水を好むため、西日本では湧水のある地

域に限られています。水温がほぼ15℃で一定している地蔵川は好条件なのです。

名前の由来は、水中で咲く白い花が梅に似ているからで、5月から9月にかけて1㎝前後の花を咲かせます。この花を目的に、醒井宿を訪れる人も多いようです。

醒井大橋

既述の醒井宿資料館から100mばかりのところにあります。親柱に醒井大橋と記されていますが、川幅3mの地蔵川に架かる橋で、橋および前後の道路は中山道です。現在の橋は平成9年に竣工したものですが、明治時代には琵琶湖への船着場がありました。

川口家住宅

宿場で大名や役人への人馬を手配する施設を問屋場、その主を問屋と言います。川口家住宅は江戸時代前期の木造平屋建てで、醒井宿に7カ所あった問屋場の1軒です。完全な姿での現存は珍しく、平成12年から旧醒井郵便局とともに米原市醒井宿資料館として公開されています。

本陣跡

本陣は残っていませんが、「本陣 樋口山」という日本料理店があります。店の玄関先待合には、大名などが宿泊したときに掲げられていた当時の関札が展示されています。

かしわばらしゅく 柏原宿

中山道60番目の宿場で、醒井宿と同じ滋賀県米原市にあります。天保14年（1843年）には、本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠22軒。中山道の中でも大規模な宿場でした。

艾（もぐさ）が特産品で、最盛期には「伊吹艾」を商う店が10軒以上あり、現在も伊

吹堂亀屋左京商店（後述）1軒が営業しています。

米原市柏原宿歴史館

染料で財をなした伊吹堂の分家、松浦久一郎の邸宅を改築した施設です。大正6年に建築され、木造二階建て、建築面積は２８５㎡。当地では極めて豪華な仕様となっています。

歴史館玄関

２９５年間にわたる役所への届出文書、高札、道具など、柏原宿の史料が展示されています。宿場町文化の保存と活用を図るため、平成10年に開館し、同12年には国の登録有形文化財に登録されました。

本陣跡

柏原宿歴史館から中山道を北東へ約１８０m行った民家前に本陣跡の表示があります。その左脇には「皇女和宮宿泊柏原宿本陣跡地」の石碑が立っています。

和宮が14代将軍家茂に降嫁するため、江戸への向かうときに宿泊したのは文久元年（１８６１年）10月24日です。その後、夫の家茂が第二次長州征伐の途上、慶応元年（１８６５年）閏5月14日に宿泊したとの説明板も掲示されていました。

跡地ですから、本陣はありません。実は明治22年（１８８９年）に、中山道57番目の垂井宿（岐阜県垂井町）にある鉄塔山神社へ売却、移築されています。本陣の上段の間、書院、玄関などが神社の建物として現存しています。

亀屋左京商店

現在、この1軒が伊吹山の薬草を原料とした伊吹艾を製造・販売しています。「伊吹堂亀屋もぐさ」として寛文元年（１６６１年）に創業しました。平成25年以後の正式名称は「合同会社亀屋左京商店」です。

虫籠窓には伊吹堂の看板

亀屋左京を有名にしたのは六代目の通称七兵衛です。艾屋の次男として寛政元年（１７８９年）の生まれと言われています。20歳ごろ、江戸での艾の行商により儲けた七兵衛は、通っていた吉原の遊女に「江州柏原、伊吹山の麓の亀屋左京の切り艾」との歌を教え、夜ごと宴席で歌わせていました。いわゆるＣＭソングが流行、伊吹艾の名が全国

的に広がりました。大金を得た七平衛は郷里で田畑を買い、妻を迎えました。しかし、人の妬みを買い、暴行を受けましたが、これも演目名を「伊吹艾」とする浄瑠璃とし、大坂や京で興行しました。これも大当たり、伊吹艾はさらに有名になりました。

七兵衛は儲けた資金で、邸宅に庭園や旅人の休息場を作りました。その店先の様子が「歌川広重の木曾海道六拾九次之内　柏原（天保６～８年）」に描かれています。

柏原銀行本店跡

柏原銀行は明治34年（１９０１年）に創設された銀行。艾店だった山根為蔵が同業者などに働きかけ、自宅別棟に設立しました。昭和18年に滋賀銀行に買収されましたが、その間の42年間、地域の経済活動を支援してきた功績は評価されています。

本店の土地建物は米原市に寄贈され、平成21年に修復されました。現在は「東部ディサービスセンターはびろ」の標識が掲示され、米原市社会福祉協議会が運営する通所介護施設なっています。

一里塚跡

街道の1里（４㎞弱）ごとに設けられた土盛りで、旅人の目印となっていました。柏原宿には江戸から数えて１１５番目の一里塚がありました。西見附付近の街道を挟み、北塚と南塚があり、直径９ｍの半円球状で、頂部に3本の榎が植えられていましたが、河川工事などにより撤去され、両塚とも現存していません。

昼食会場　渓流魚専門料理店「養鱒センターきたがわ」

春の近郊の史跡を歩く会
源氏物語 宇治十帖の舞台を巡る

池之宮　上地　勉

令和6年の「春の近郊の史跡を歩く会」は、5月21日に源氏物語「宇治十帖」の舞台となった新緑の宇治を訪ねました。宇治十帖とは、「源氏物語」全五十四帖のうちの最後の十帖。光源氏の死後の物語で、薫大将を主人公とし、舞台が宇治であることから「宇治十帖」と呼ばれています。

当日は、参加者21人が午前9時30分に京阪宇治駅に集合、村次副会長の挨拶の後、地元ガイドさん3人と3班に分かれて、平安絵巻の面影を残す宇治川周辺を歩きました。天候に恵まれた歩く会となりました。

京阪宇治駅

集合場所の京阪宇治駅は、南海電車「ラピート」のデザインを手掛けた建築家、若林広幸が設計しました。そのデザインが評価され、１９９６年に私鉄の駅舎としては初めての「グッドデザイン賞」に選ばれています。

宇治橋

大化2年（６４６年）に奈良元興寺の僧道登によって最初に架けられたと伝えられ、「瀬田唐橋」「山崎橋」とともに、日本三古橋の一つ。現在の橋は、平成8年（１９９６年）に完成したもので、周辺の景観に調和したデザインとなっています。

三の間

宇治橋の上流側歩道部分に張り出した「三の間（さんの

ま）」は、守護神「橋姫」を祀った名残とされ、豊臣秀吉が茶の湯に使う水を汲ませた場所と言われています。

三の間でガイド（左端）さんの説明を聞く

毎年10月の第1日曜日に開催される宇治の茶まつりでは「汲み上げの儀」が行われます。「三の間」からシュロ縄につるした釣瓶で清水を汲み上げ、竹筒に移し、当時を想わせる衣装に身を包んだ行列により、献茶の行われる興聖寺に運ばれています。

通園本店

茶人通園が宇治橋東詰で茶を売っていたお店。宇治橋東詰めにあります。創業は平安時代末、永暦元年（１１６０年）に遡ります。現在の建物は、寛文12年（１６７２年）に建てられました。都名所図会（安永９年）に掲載されている建物が現在の建物です。

宇治橋の架け替えが20年から30年に一回、架け替えられ、その都度、幕府の手で通園も立て替えや修理をしてもらっていました。

さわらびの道

宇治川東側の石畳で、しっとりとした雰囲気の散歩道です。源氏物語ミュージアム、宇治上神社、宇治神社へと通じています。道名は「宇治十帖」の「早蕨（さわらび）」の舞台となったことに由来しています。

与謝野晶子歌碑

「さわらびの道」沿いにある歌碑。黒御影石の西面、東面に宇治十帖にちなんだ歌が、５首ずつ記されています。

宇治上神社

菟道稚郎子（うじのわきいらつこ／応神天皇皇子）、応神天皇（第15代）、仁徳天皇（第16代／菟道稚郎子異母兄）を祀っています。

国宝に指定されている本殿は、平安時代後期に伐採された木材が使われており、神社建築では日本最古と言われています。

宇治上神社本殿

拝殿も国宝に指定されており、鎌倉時代前期に伐採された桧が使用され、鎌倉時代前期の優れた建築遺構です。

宇治神社

明治になってから宇治上神社と分離した神社。祭神は、宇治上神社と同じ菟道稚郎子です。本殿は鎌倉時代後期の造営で国の重要文化財。自然のなかにゆったりとたたずむ

境内は、趣と歴史・文化を感じさせてくれます。

近年は、神の使いである「みかえり兎」が、正しい道に導く兎として崇められ、多数の参拝者が訪れています。

宇治十帖モニュメント

宇治川右岸の朝霧橋のたもとにあり、源氏物語「宇治十帖」の古跡全体を象徴するモニュメントです。

ヒロイン「浮舟（うきふね）」と「匂宮（におうのみや）」が小舟で宇治川に漕ぎ出す有名な情景をモチーフにしています。

絵馬を持ちながら本殿を時計回りに3周する間に、3つのうさぎの置物に出会えると、絵馬に書いた以上のご利益が授かるとされています。

朝霧橋

昭和47年（1972年）に架けられた長さ74ｍの朱塗りの橋です。宇治川右岸と中州に浮かぶ橘島を結んでいます。

宇治川先陣の碑

宇治橋の東側、宇治川の中州になっている橘島にあり、昭和6年（1931年）に建てられました。

寿永3年（1184年）1月に起きた宇治川の戦いは、木曽義仲と源頼朝という源氏同士の戦でした。木曽義仲4００に対して、義経率いる2万5千という圧倒的な兵力差がありました。

宇治川を渡る義経側の佐々木高綱と梶原景季が、功名を上流の塔の島とは中島橋、さらに喜撰橋を経て、宇治川左岸にある平等院へと繋がっています。

得ようと必死に競い合った先陣争いの地です。実際には、現在の宇治橋よりさらに下流にあったと言われています。

十三重石塔

宇治川の中州、塔の島にある高さ15ｍの塔です。わが国最大の石塔で、西大寺の僧叡尊が弘安９年（１２８６年）、宇治川で捕獲される魚霊の供養と宇治橋の安全を祈り、建立しました。

平等院鳳凰堂

今回の歩く会では「平等院鳳凰堂」には入らず、ガイドさんの説明を聞きました。

平等院鳳凰堂は、藤原道長の長男藤原頼道によって天喜元年（１０５３年）に建立された阿弥陀堂です。華やかな藤原摂関時代をしのぶことのできる唯一の遺構であり、国宝に指定されています。

最も大きな特徴は、池の中島に建てられていることです。あたかも極楽の宝池に浮かぶ宮殿のように、その美しい姿を水面に移しています。

頼道も父親道長と同じように、極楽浄土での往生を願って、極楽浄土の様子や阿弥陀如来の姿を見て、心に描きやすくするために、鳳凰堂を建てたと言われています。

京阪宇治駅で記念写真

片町線 京阪電車の歴史

交野市天野が原町　堀家啓男

日本最初の鉄道は明治5年（１８７２年）10月14日、新橋、横浜間に開通した官営鉄道です。それから遅れること4年、京阪間の鉄道が明治9年（１８７６年）9月、初めて京都～大阪間で淀川右岸、北摂の野に開通します。後の東海道線です。大阪～神戸間が、同7年5月に開業しており、同10年（１８７７年）2月、天皇の臨幸を得て、三停車場で盛大な開業式が挙行されました。地形的に敷設しやすい淀川右岸が先行したのです。

左岸が遅れたのは、中ほどに広がる交野ケ原が微高地であり、淀川低地は地盤軟弱、狭隘で工事の難航が予想されたからでしょうか。

片町線の誕生

左岸の片町線は明治28年（１８９５年）、民営の浪速鉄道が片町駅（都島区片町）～四条畷駅間で開通したのが始まりです。生駒山地のふもと、東高野街道沿いです。

なぜ片町・四条畷間

近世の淀川左岸、人びとの往来で賑わっていたのは京街道沿いでした。なぜ、ひなびた東高野街道沿いが先だったのでしょうか。筆者が思うに、この背景には新政府の思想戦略が秘められていたと思われます。

明治半ば、自由民権運動が高まり、政府は憲法の制定を求められ、さらに国会を開くことが求められていました。主権在君の国家を作ろうとしていた政府関係者には、天皇が統治しやすい国づくり、つまり従順な臣民を育てることが喫緊の課題でした。

大日本帝国憲法を施行（明治23年11月）するにあたって、その前に教育勅語を公布（同年10月）し、臣民が守るべき徳目、ルールをあらかじめ示し、一旦、天皇や国家に危機ある時は、すべてをなげうち、死さえも恐れぬ兵士、臣民を育てることを明確にする必要があったのです。そして育てるべき臣民の模範を示したのです。同年4月、後醍醐天皇の忠臣楠木正成公の長

男楠木正行（まさつら）公を祀る四條畷神社（四條畷市南野）が創始されました。親子二代にわたる忠臣、正行公こそ鏡となるような臣民でした。

南朝のため吉野を出陣し、北朝軍との四條畷の戦いで戦死、飯盛山の麓近く四條畷に墓所がある正行公を神として祀るのに四條畷はふさわしい土地でした。この新しい聖地ともいえる四條畷神社への参拝者を運ぶ鉄道を敷設しようという計画が持ち上がったのです。

四条畷まで開通

経済人11人が「浪速鉄道」を起こし、わずかの間に片町から四條畷までの鉄道計画を具体化します。敷設予定地は平坦地で工事は順調に進み、明治28年（１８９５年）、四条畷駅までの鉄路が開業します。片町線です。

長尾・木津まで延長

明治30年（１８９７年）には、浪速鉄道を買収した関西鉄道が、「城河鉄道」の四条畷～木津間の認可権を取得し、四条畷～木津間の工事に着手します。同31年４月に長尾まで、６月には木津間を開通させました。先進的な鉄道会社といわれた「関西鉄道」（本社三重県四日市市／すでに名古屋まで到達していた）が大阪と京都への路線の確保を急いだからと言われています。片町線沿線を発展の可能性ある地域と考えていたのです。

片町線の延長は当初、東高野街道に平行させる計画であり、交野、私部付近を通る予定だったと思われます。私部の実業家原田元治郎が「城河鉄道」の取締役であり、計画が実現すれば、私部にとって好都合だったでしょうが、日清戦争が起こり、計画は休眠状態となりました。

日清戦争後、「関西鉄道」が路線の拡大を図り、また沿線の津田村（村民の寄付を募る）と菅原村が停留場用地を寄付することを条件に、路線を山寄り（山根街道沿い）に変更するよう要望したこともあり、現在の路線となったと言われています。

明治40年（１９０７年）、主要鉄道の国有化を目指していた国は片町線を国有化します。富国強兵策で兵員の大量輸送のためには官営鉄道網の充実が必要だったのです。なお、愛称は「学研都市線」ですが、正式路線名は「片町線」です。

淀川蒸気船の活躍

片町線が開通しても、淀川左岸の枚方近辺からは、東海道線や片町線の停留所は遠くて不便なため、大阪や京都へは相変わらず淀川蒸気船が利用されていました。

蒸気船は、慶応４年（１８６８年）に初めて淀川に登場しました。同９年、蒸気船の着岸地は、伏見と八軒屋間に30カ所もあり、枚方付近では三矢村、泥町村の浜２カ所で

した。上り6時間、下り3時間が必要でした。同20年頃には、淀川に蒸気船13隻が運航し、同21年、汽船会社が合併して淀川汽船会社を発足させます。20年代以降、枚方付近の着岸地は枚方浜だけとなり、鍵屋旅館（現・市立枚方宿鍵屋資料館）も「汽船乗客貨物取扱所」として業務していました。1隻あたり１５０人程が定員です。しかし、明治36年（１９０３年）を頂点に、蒸気船の運航は下降線をたどり、貨物輸送の曳船業に移行していきます。

渋沢栄一が委員長に

明治35年頃、関東と関西の経済人から、淀川左岸の京都大阪間に新しい民鉄計画が持ち上がりました。明治39年（１９０６年）8月、東京市で発起人総会が開催され、男爵渋沢栄一を委員長に準備が進みました。11月19日には、渋沢を議長とする総会を開催、京阪電鉄株式会社が創立され、淀川左岸の鉄道建設計画が動き出しました。

新一万円札に渋沢栄一の肖像が使われましたが、身近な京阪電鉄と関わりがある人だと思うと、親しみがわくとともに、1枚でも多く自分の財布に長く留まって欲しいと思うのは人情ですね。

京阪電鉄が開業

淀川左岸の鉄路は、政府の指導により旧京街道筋や鳥羽街道沿いに敷かれる計画だったため、実施段階で余儀なく設計変更されました。京阪電車は、急カーブが多いと言うので有名です。

当初、大阪、高麗橋東詰めから京都・五条間を予定していましたが、大阪市がビジネスの地、北浜に「市電」を通すことに拘ったため、京阪電鉄は天満橋を起点とすることに譲歩しました。

契約では「新設の市電」の軌道に京阪電車が乗り入れ、梅田まで運行することになっていました。そのため、京阪電鉄は市電型の電車を予定していました。しかし、後に大阪市側が、「乗り入れる電車を小さくせよ」などと条件を付けたために実現せず、現在も京阪電車は梅田には入っていません。

昭和38年（１９６３年）、京阪電鉄は大阪ビジネス街の中心、北浜を経て淀屋橋まで路線を延長します。一方、大阪市電は自動車交通の混雑緩和のため、昭和43年（１９６９年）に全廃されました。京阪電車が梅田まで乗り入れていたら、少なくとも梅田までの路線は京阪電車として残っていたかもしれないし、京阪沿線の利用客には便利だったしょう。

明治43年（１９１０年）4月15日、予定より半月遅れで京阪電鉄が開業します。大阪天満橋から京都五条間、複線４６・５７キロメートル、30駅、所要時間１００分でした。

枚方地域では枚方（現・枚方公園／昭和24年改称）、枚方東口（現・枚方市／同）、牧野、樟葉の4駅がありました。その後、光善寺駅が参拝者増に合わせ、同年12月に設置され、さらに昭和4年（１９２９年）には、日本画家・矢野橋村の大阪美術学校の開設に合わせ、通学生のために御殿山駅が設置されました。

東宮殿下が御乗り

京阪電鉄開業の日の朝、野田橋付近で脱線、停電して一時運行が不能となりました。風評が悪化し、営業成績は最悪、苦難の日々が続きましたが、起死回生の出来事が起こります。

明治43年9月26日から淀川沿岸で行われる陸軍特別大演習において、台臨予定の東宮殿下（嘉仁殿下／後の大正天皇）が京都五条終点から演習地、淀川沿岸各地までの移動手段として、開業したばかりの京阪電車を利用されることになりました。若い頃の東宮は比較的に元気で全国を巡啓したが、いつも簡素を好まれ、自ら予定を変更されることもあったと言われています。親しみやすい人だったそうです。開業したばかりの京阪電車のことを知り、演習地まで公共交通を使用するよう提案されたかも知れません。いずれにしても京阪電鉄は大変喜んで、入念な準備をおこない、車両を改装し、お召し列車を用意したと言われています。

東宮殿下の乗車日と区間

9月26日
往路　五条～宇治川臨時駅
復路　八幡～五条

9月27日
往復　五条～宇治川臨時駅

9月30日
往復　五条～牧野・坂臨時駅

10月4日
片道　五条～守口

東宮殿下が京阪電車を利用されたとき、事故は皆無で行啓は無事に終わりました。これが京阪電車の信用回復につながりました。その後も明治天皇崩御後の桃山御陵埋葬時や大正天皇のご大典の際、京阪電車の利用客が多かったようです。

長期的な乗客増対策

京阪電鉄は、開業の明治43年から長期的な乗客増対策に取り組みます。まず「香里遊園」を寝屋川の友呂岐神社付近に開設、岐阜で人気があった菊人形を導入し、秋には第1回菊人形を開催しました。

香里遊園は大正元年（1912年）、枚方の伊加賀（枚方市枚方公園町）に移転します。「枚方と言えば菊人形」と言われるほど有名になります。毎年、数十万の参観者が押しかけましたが、残念ながら平成17年（2005年）に廃止となりました。

遊園地「枚方パーク」（通称ひらパー）は、若者や家族連れに好評で、現在も京阪電車の集客施設として運営されています。

教育機関等の誘致

京阪電鉄は乗客増対策の一環として、沿線各地に土地開発を進めて住宅地を造成、加えて多くの教育機関などを誘致しました。

主な学校誘致等

昭和3年（1928年）
大阪歯科医学専門学校
（現・大阪歯科大学）
大阪高等医女子医学専門学

校（現・関西医科大学）同４年（１９２９年）大阪美術学校　軍が昭和19年に接収。同５年（１９３０年）成田山大阪別院開眼供養　京阪電車の各車両の天井近くに成田山新勝寺（不動尊）の護符（お守り）が掲げられています。京阪電鉄は乗客増のため、千葉の成田山新勝寺の大阪別院を香里に誘致しました。京阪電鉄が多額の寄付を行い、大坂城の東北にあたると言うことで、鬼門封じの願いを込めて設置された経緯を考えると、無事故、無災害を祈念するため、車両に護符を掲げるのも理解できます。

交野線の登場

交野ケ原の南部を東西に横切る鉄道と言えば、京阪交野線です。はじめ「生駒枚方電鉄」「生駒電鉄」として生駒～枚方東口（現・枚方市駅）を結ぶ計画でしたが、実際には大正11年（１９２２年）、信貴生駒電鉄（信貴電）枚方線として誕生しました。

生駒山地を横断する生駒と私市を結ぶ線も計画されました。大阪、京都方面から枚方東口経由で信貴山朝護孫子寺等の沿線寺社へ参拝客を運ぶ計画だったと言われています。しかし、工事の難しさと経費難のため実現しませんでした。

私市駅前にある未完の用地跡

昭和４年（１９２７年）７月10日、枚方東口～私市間が開通します。設置駅は枚方東口、村野、郡津、交野（現・交野市）、私市でした。

翌５年10月、河内森駅が設置されました。同10年（１９３５年）12月2日、信貴電磐船駅ができ、高架上にホームが設置されます。高架下には片町線の河内磐船駅が同日設置され、連絡可能となりました。同13年４月、信貴電が京阪電鉄傘下の交野電気鉄道として分離、磐船駅が交電磐船駅となりました。同年11月、星丘駅が設置されました。

昭和14年3月、禁野火薬庫爆発の被害を受けます。同15年（１９４０年）９月、陸軍禁野火薬庫、枚方製造所従業員の通勤のため、中宮駅（現・宮之阪駅）を設置され、利用者が増えます。同20年５月、戦争遂行の一環で京阪電車に吸収合併されました。

終戦後の同20年９月、輸送混乱防止のため、河内森駅から郡津駅までが休止されます。同21年２月、星丘駅、郡津駅が再開、同23年５月、河内森駅改築復活に伴い、立体交差駅であった磐船駅が廃止されました。理由は、乗客の流れが京阪電車に不利だったからと言われています。

河内磐船駅近くの住人に聞いたところ、戦前、確かに立体交差上に交電磐船駅のホームがあり、枕木を活用した階段があったとのことです。JR河内磐船駅の大阪側隣接地に空き地が残っていますが、ここが改札のあったところでしょう。

淀川の低平地から天野川の谷沿いをさかのぼり、生駒山地の高台を目指す京阪交野線

について、鉄道ファンは「登山電車」の雰囲気があると言います。確かに夕ぐれの中を交野駅と河内森駅間を、低地から高所へ上っていく電車の姿は美しいです。

軍需工場への引込線

昭和11年（１９３６年）、片町線の津田駅から専用引き込み線が敷かれ、禁野火薬庫、および分岐の枚方製造所へと交野ケ原の中部を横切っていました。専用鉄道と呼ばれていました。

昭和16年（１９４１年）９月には、星田駅から香里製造所（東京第二陸軍造兵廠宇治製造所香里工場、後に独立し香里製造所）への軍用鉄道引き込み線が敷かれ、香里側線と呼ばれて、交野ケ原南西部を横切っていました。戦後になり、全面的に撤去されましたが、軍需工場があった交野ケ原ならではの特徴です。

新会員紹介

奥野　美佳さん　東田宮
川西　啓子さん　甲斐田東町
樋口　順子さん　朝日ヶ丘
西岡　昌子さん　岡山手町
富田　靖さん　岡山手町
野村　明央さん　高塚町
（令和６年９月30日現在）

会員募集中

本会は、講演会や観光バスを利用した日帰り見学会を実施しています。皆さんの入会をお待ちしています。ご希望の方はホームページ、または電話０７２（８５７）２９９５上谷まで。

ホームページを開設しています

本会をよりご理解、ご賛同をいただくため、事業内容、入会案内などを掲載しています。
ＨＰ　https://syukubamachi-hirakata.com

宿場町枚方を考える会　検索してね！